（第三種郵便物認可）第４１８号（通巻第617号）毎月１回15日発行

年金者しんぶん

第418号 2024年10月15日（火）
（通巻第617号）
全日本年金者組合中央本部
〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人　杉澤　隆宣　月刊１部100円（組合費に含む）
昭和57年６月30日第三種郵便物認可

2024.8 組合員数99,849人　連絡先☎03（5978）2751　FAX03（5978）2777　honbu@nenkinsha-u.org　ホームページ／年金者組合で検索

24年金署名、千葉のエース、安房支部

千葉安房支部署名宣伝（館山城内）

ふつうの積み重ねです

安房支部書記長　新屋敷　孝さん

千葉県の安房支部は「年金雇用署名２０２３」525筆、「保険証廃止反対署名」２９１筆（9月15日現在）を記録しました。いずれも千葉県1位・2位の署名数です。安房支部は支部だよりの配達で署名をお願いすることはもちろんですが、年金支給日宣伝・署名（2カ所）、毎月実施お楽しみ会、サークル・同好会と機会あるごとに訴えています。

「月4万円の年金ではとても暮らせません。貯金を取り崩して生活しています」、鴨川駅で客待ちしているタクシー運転手は「うちの母も低年金です。年金引き上げ頑張って下さい」など、市・町民の方と対話をしながら年金増額の世論を大きくしていきたいと思います。こうした「ふつうの積み重ね」が目標を実現する道だと思います。

京都に学ぶ大阪
執行委員会を傍聴

大阪府本部の中島書記長と是枝副委員長が9月4日、京都府本部執行委員会を訪ね学びました。

京都の執行委員会は、大阪の支部代表者会議が執行委員会になっています。北は丹後支部から南の相楽支部、26支部が結集しています。

秋の仲間づくり運動についての議論で12人の発言を聞くことができました。

京都の8月結果は53・8％の支部で成果をあげています。京都が変われば日本が変わる。京都の底力を感じました。

24年金署名用紙
追加注文は早く

組合員数を集めよう

24年金署名の用紙が追加注文多く在庫が残り少なっています。宮城、千葉で2千枚、京都、和歌山、岡山が千枚など。署名は最低でも組合員数は集めましょう。

私達の主張残して欲しい
最高裁第一小法廷 不当判決に抗議

年金減額違憲裁判の最高裁第一小法廷（宮川美津子裁判長）は9月12日、島根、福島、広島、埼玉、新潟の5事案に対して上告を棄却する「合憲」の不当判決を下しました。

全国弁護団と年金者組合中央本部は連名で夕刻、厚生労働省記者クラブで「抗議声明」を発表。車イスで来られた埼玉の原告、伊藤千枝子さん＝**写真上**は「85歳ひとり暮らし、年金月額7万円では介護施設に入れない。スーパーで値下げの品があると嬉しい。生活保護以下の年金、許しがたい」「腰の引いた司法でいいのか、私たちの主張を少しでも残して欲しい」と凛として訴えました。

抗議声明 要約２面

裏金の自民党政治もうたくさん
九条外交で戦争しない政府を
物価上昇を上回る年金の増額を

総選挙アピール・２面

知恵の秋 工夫こらしてスタート

「大阪未来委員会」やり切る挑戦

9月から「月間」。「何としても200人やり切る」（織部府委員長）。「週報」体制。春には和歌山、秋は京都の執行委員会を視察し学ぶ。「中規模支部活動交流集会」に成否をかける「史上最大の作戦」「一万人回復めざす未来委員会」の未来が始まりました。

しっかり準備　三重　千人復活

新支部「紀南」を発足させた三重県本部。「しっかり学習して」「千人復活」。「楽しみ7分、学び3割」で仲間を増やす。支部行事、企画・サークル活動で年金者組合の姿が見える県と支部ニュースの紙面づくりに取り組んでいます。

偶然か、愛知も「年金者の未来」

「愛知年金者の未来6か年計画」。一年ごとに検証。8千人復活へ。日本高齢者大会in愛知で「歌いたい人集まれ」大型うたごえで加入作戦。着々。

出だしが大事　年間で増えた千葉

9月2日、「支部代・県役員合同」で意思統一。年間700人増の4割、280人増やす。支部は6％目標。年金者組合の理解は中央「年金者しんぶん」全加入者と未読者に購読進める。年金裁判「やり切った」感。

風雪

▼はじめての母親大会は学生だった。まだ母親ではないんですけど、という傍観者的だった▼3児の母親になり、フルタイムで働いていた時は参加する余裕がなかった。開催県になった時、末っ子だけ留守ばんさせて、夫・娘・息子も要員として借り出した。現地運営委員として徹夜だった▼いつも母親のパワーに圧倒される。万に近い母親が全国からあつまってくる。それだけでパワーをもらった。オープニングで障がい者の福祉施設の歌とダンスが華やかに元気いっぱい披露された。「精神障害にダウン症、それが何というのでしょう」という言葉が心に刺さった。有吉佐和子を今日まで生きさせたかった▼紀ノ川はどんな姿になって大海に流れ着いたのだろう。母親大会というよりはババ親大会にという感じだが次世代は確実に育っている。来年は3世代で参加したい。（N）